# SnapCenter サーバとプラグインを管理します

SnapCenter Software 4.6

NetApp
September 29, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/snapcenter-46/admin/concept_overview_of_dashboard.html on September 29, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次


SnapCenter サーバとプラグインを管理します 1
ダッシュボードを表示します 1
ダッシュボードの概要 1
ダッシュボードに情報を表示する方法 5
ダッシュボードからジョブのステータスレポートを要求します 6
ダッシュボードから保護ステータスのレポートを要求します 6
RBAC を管理します 7
ロールを変更します 7
ユーザとグループを変更します 7
ホストを管理します 8
仮想マシン情報を更新します 9
プラグインホストを変更します 9
プラグインサービスを開始または再起動します 10
ホストメンテナンスのスケジュールを一時停止します 11
Resources ページでサポートされている操作 11
ポリシーを管理する 13
ポリシーを変更する 13
ポリシーを適用解除 14
ポリシーを削除する 14
リソースグループの管理 14
リソースグループに対する処理を停止および再開する 15
リソースグループを削除する 15
バックアップを管理します 16
バックアップの名前を変更する 16
バックアップを削除します 16
クローンを削除します。 17
ジョブ、スケジュール、イベント、およびログを監視する 18
ジョブを監視する 18
スケジュールを監視 19
イベントを監視する 19
ログを監視する 19
SnapCenter からジョブとログを削除します 20
SnapCenter のレポート機能の概要 21
レポートにアクセスする 22
レポートをフィルタします 23
レポートをエクスポートまたは印刷します 23
E メール通知に使用する SMTP サーバを設定します 23
レポートを E メールで送信するオプションを設定します 24
SnapCenter サーバリポジトリを管理します 24

SnapCenter リポジトリを保護するための前提条件 24
SnapCenter リポジトリをバックアップします 25
SnapCenter リポジトリのバックアップを表示する 25
SnapCenter データベースリポジトリをリストアします 25
SnapCenter リポジトリを移行する 26
SnapCenter リポジトリのパスワードをリセットします 27
信頼できないドメインのリソースを管理します 27
信頼できないドメインを変更します 28
信頼されていない Active Directory ドメインの登録を解除 28
ストレージシステムを管理 29
ストレージシステム構成を変更する 29
ストレージシステムを削除 31
EMS データ収集を管理します 32
EMS データ収集を停止します 32
EMS データ収集を開始します 32
EMS データ収集のスケジュールとターゲット SVM を変更します 32
EMS データ収集のステータスを監視します 33

# SnapCenter サーバとプラグインを管理します

## ダッシュボードを表示します

### ダッシュボードの概要

SnapCenter の左側のナビゲーションペインで、ダッシュボードを使用すると、最近のジョブアクティビティ、アラート、保護の概要、ストレージの効率性と使用状況、SnapCenter ジョブのステータス（バックアップ、クローン、リストア）、スタンドアロンおよび Windows クラスタホストの構成ステータスなど、システムの健全性を一目で把握できます。 SnapCenter で管理されている Storage Virtual Machine （ SVM ）の数とライセンス容量。

ダッシュボードビューに表示される情報は、 SnapCenter に現在ログインしているユーザに割り当てられたロールによって異なります。ユーザにその情報を表示する権限がない場合、一部のコンテンツが表示されないことがあります。

多くの場合、 * i * にカーソルを合わせると、ディスプレイに関する詳細情報を表示できます。状況によっては、リソース、モニタ、レポートなどの SnapCenter GUI ページの詳細なソース情報にダッシュボードの情報がリンクされていることがあります。

#### 最近のジョブアクティビティ

[ 最近のジョブアクティビティ ] タイルには、アクセス可能なバックアップ、リストア、クローンジョブの最新のジョブアクティビティが表示されます。この表示のジョブには、完了、警告、失敗、実行中、キューに登録済み、 キャンセルされました。

ジョブにカーソルを合わせると、詳細が表示されます。特定のジョブ番号をクリックすると、追加のジョブ情報が表示されます。これにより、 [ モニタ ] ページにリダイレクトされます。そこからジョブの詳細またはログ情報を取得し、そのジョブに固有のレポートを生成できます。

すべての SnapCenter ジョブの履歴を表示するには、 * すべて表示 * をクリックします。

#### アラート

アラートタイルには、ホストおよび SnapCenter サーバに関する最新の未解決の重大アラートと警告アラートが表示されます。

重大および警告カテゴリのアラートの総数が、ディスプレイの上部に表示されます。[Critical] または [Warning] の合計をクリックすると、 [Alerts] ページに特定のフィルタが適用された状態で [Alerts] ページにリダイレクトされます。

特定のアラートをクリックすると、そのアラートの詳細が [Alerts] ページに表示されます。ディスプレイの下部にある [**See All**]( すべてを表示 ) をクリックすると、 [Alerts] ページにすべてのアラートのリストが表示されます。

#### 最新の保護の概要

最新の保護サマリタイルには、アクセス可能なすべてのエンティティの保護ステータスが表示されます。デフ

ォルトでは、すべてのプラグインにステータスが表示されるように設定されています。ステータス情報は、プライマリストレージに Snapshot コピーとしてバックアップされたリソース、および SnapMirror テクノロジと SnapVault テクノロジを使用してセカンダリストレージに提供されます。セカンダリストレージの保護ステータス情報は、選択したプラグインタイプに基づいています。

ミラーバックアップ保護ポリシーを使用している場合は、 SnapMirror チャートではなく、保護の概要のカウンタが SnapVault の概要チャートに表示されます。

ドロップダウンメニューからプラグインを選択すると、個々のプラグインの保護ステータスを確認できます。ドーナツグラフには、選択したプラグインの保護されているリソースの割合が表示されます。ドーナツスライスをクリックすると、 **Reports**>*Plug-In * ページに移動します。このページには、指定されたプラグインのすべてのプライマリおよびセカンダリストレージアクティビティの詳細なレポートが表示されます。

セカンダリストレージに関するレポートは SnapVault のみに適用されます。 SnapMirror レポートはサポートされません。

SAP HANA は、 Snapshot コピーのプライマリストレージとセカンダリストレージの保護ステータス情報を提供します。ファイルベースのバックアップでは、プライマリストレージの保護ステータスのみを使用できます。

| 保護ステータス | プライマリストレージ | セカンダリストレージ |
|---|---|---|
| 失敗しました | リソースグループに属しているエンティティの数。リソースグループでバックアップが実行されましたが、バックアップは失敗しました。 | セカンダリデスティネーションへのバックアップの転送に失敗したエンティティの数。 |
| 成功しました | リソースグループが正常にバックアップされた、リソースグループ内のエンティティの数。 | バックアップがセカンダリデスティネーションに正常に転送されたエンティティの数。 |
| 未設定 | いずれのリソースグループにも属しておらず、バックアップされていないエンティティの数。 | 1 つ以上のリソースグループに属しており、セカンダリデスティネーションにバックアップを転送するように設定されていないエンティティの数。 |
| 開始されていません | リソースグループに属しているが、バックアップが実行されていないエンティティの数。 | 該当なし。 |

SnapCenter Server 4.2 以前のバージョンのプラグイン（ 4.2 より前）を使用してバックアップを作成している場合、最新の保護概要 * タイルには、これらのバックアップの SnapMirror 保護ステータスは表示されません。

ジョブ

Jobs タイルには、アクセス可能なバックアップ、リストア、およびクローニングのジョブの概要が表示され

ます。ドロップダウンメニューを使用して、レポートの期間をカスタマイズできます。期間のオプションは、過去 24 時間、過去 7 日間、および過去 30 日間で固定されます。デフォルトのレポートには、過去 7 日間に実行されたデータ保護ジョブが表示されます。

バックアップ、リストア、およびクローニングのジョブ情報がドーナツグラフに表示されます。ドーナツスライスをクリックすると、選択項目にあらかじめ適用されているジョブフィルタを含む [ モニタ ] ページに移動します。

| ジョブステータス | 説明 |
| --- | --- |
| 失敗しました | 失敗したジョブの数。 |
| 警告 | エラーが発生したジョブの数。 |
| 成功しました | 正常に完了したジョブの数。 |
| 実行中です | 現在実行中のジョブの数。 |

ストレージ

ストレージタイルには、 90 日間の保護ジョブで使用されるプライマリストレージとセカンダリストレージが表示され、消費傾向をグラフィカルに表示して、プライマリストレージの削減量を計算します。ストレージ情報は、 24 時間ごとに午前 12 時に更新されます

この日の合計消費量は、 SnapCenter で使用できるバックアップの合計数と、これらのバックアップが占有するサイズで構成され、画面の上部に表示されます。1 つのバックアップに複数の Snapshot コピーが関連付けられることがあり、その数は同じになります。これは、プライマリとセカンダリの両方の Snapshot コピーに当てはまります。たとえば、バックアップを 10 個作成し、そのうち 2 個はポリシーベースのバックアップ保持のために削除され、 1 個はユーザが明示的に削除するように設定したとします。したがって、この 7 つのバックアップが占有している数と 7 個のバックアップが表示されます。

プライマリストレージのストレージ削減率係数は、プライマリストレージの物理容量に対する論理容量（クローンと Snapshot コピーによる削減量とストレージ消費量）の比率です。棒グラフは、ストレージの削減量を示します。

このグラフには、連続した 90 日間におけるプライマリとセカンダリのストレージ消費量が 1 日単位で表示されます。グラフにカーソルを合わせると、詳細な日単位の結果が表示されます。

SnapCenter Server 4.2 以前のバージョンのプラグイン（ 4.2 より前）を使用してバックアップを作成する場合、「ストレージ」タイルには、バックアップ数、バックアップで消費されるストレージ容量、 Snapshot の削減量、クローンの削減量、および Snapshot のサイズは表示されません。

設定

[ 構成 ] タイルには、 SnapCenter が管理しているすべてのアクティブなスタンドアロンホストと Windows クラスタホストのステータス情報が統合されて表示され、にアクセスできます。これには、ホストに関連付けられているプラグインのステータス情報も含まれます。

Hosts （ホスト）の横にある数字をクリックすると、 Hosts （ホスト）ページの Managed Hosts （管理対象

ホスト）セクションにリダイレクトされます。このページから、選択したホストの詳細情報を取得できます。

さらに、 SnapCenter で管理しているスタンドアロンの ONTAP ONTAP とクラスタ SVM の合計と、アクセス権があることが表示されます。SVM の横にある番号をクリックすると、ストレージシステムのページに移動します。このページから、選択した SVM の詳細情報を取得できます。

ホストの構成状態は、それぞれの状態のホストの数に加えて、赤（重大）、黄（警告）、緑（アクティブ）で表示されます。ステータスメッセージは各状態について表示されます。

| 設定ステータス | 説明 |
| --- | --- |
| アップグレードは必須です | サポートされていないプラグインを実行していてアップグレードが必要なホストの数。サポートされていないプラグインは、このバージョンの SnapCenter と互換性がありません。 |
| 移行は必須です | サポート対象外のプラグインを実行し、移行が必要なホストの数。サポートされていないプラグインは、このバージョンの SnapCenter と互換性がありません。 |
| プラグインがインストールされていません | 正常に追加されたがプラグインのインストールが必要なホストの数、またはプラグインのインストールが失敗したホストの数。 |
| 中断しました | スケジュールが一時停止されている、かつメンテナンス中のホストの数。 |
| 停止しました | 稼働しているホストのうち、プラグインサービスが実行されていないホストの数。 |
| ホストが停止しています | 停止しているか到達できないホストの数。 |
| アップグレード可能（オプション） | 新しいバージョンのプラグインパッケージをアップグレードに使用できるホストの数。 |
| 移行を利用可能（オプション） | 新しいバージョンのプラグインを移行可能なホストの数。 |
| ログディレクトリを設定します | SCSQL がトランザクションログバックアップを実行するようにログディレクトリを設定する必要があるホストの数。 |
| VMware プラグインを設定 | SnapCenter Plug-in for VMware vSphere を追加する必要のあるホストの数。 |
| 不明です | 登録されているがインストールがまだトリガーされていないホストの数。 |

| 設定ステータス | 説明 |
| --- | --- |
| 実行中です | 稼働しているホストおよびプラグインの数。また、SCSQL プラグインの場合は、ログディレクトリとハイパーバイザーが設定されます。 |
| プラグインのインストール / アンインストール | プラグインのインストールまたはアンインストールを実行中のホストの数。 |

ライセンス容量

Licensed Capacity タイルには、 SnapCenter の標準容量ベースのライセンスの合計ライセンス容量、使用済み容量、容量しきい値アラート、およびライセンスの有効期限に関する情報が表示されます。

この画面が表示されるのは、 Cloud Volumes ONTAP または ONTAP Select プラットフォームで SnapCenter の容量ベースのライセンスを使用している場合のみです。FAS プラットフォームまたは AFF プラットフォームの場合、 SnapCenter ライセンスはコントローラベースであり、容量無制限のライセンスです。容量ライセンスは必要ありません。

| ライセンスステータス | 説明 |
| --- | --- |
| 使用中 | 現在使用中の容量。 |
| 通知 | 容量のしきい値。ダッシュボードに通知が表示され、設定している場合は E メール通知が送信されます。 |
| 使用許諾 | ライセンスに設定されている容量。 |
| オーバー | ライセンスの容量を超えた容量。 |

## ダッシュボードに情報を表示する方法

SnapCenter の左側のナビゲーションペインでは、ダッシュボードの各種タイルや、関連するシステムの詳細を表示できます。ダッシュボードに表示される表示数は固定で、変更することはできません。各画面に表示される内容は、 Role-Based Access Control （ RBAC ；ロールベースアクセス制御）によって異なります。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * ダッシュボード * をクリックします。
  2. 各ディスプレイのアクティブな領域をクリックすると、追加情報が表示されます。

     たとえば、 * ジョブ * でドーナツグラフをクリックすると、選択の詳細がモニタページに表示されます。[ 保護の概要 ] でドーナツグラフをクリックすると、 [ レポート ] ページに移動します。このページには、選択に関する詳細情報が表示されます。

## ダッシュボードからジョブのステータスレポートを要求します

バックアップ、リストア、およびクローニングのジョブに関するレポートは、ダッシュボードページで要求できます。これは、 SnapCenter 環境で成功または失敗したジョブの総数を確認する場合に便利です。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * ダッシュボード * をクリックします
2. ダッシュボードで [ ジョブ ] タイルを見つけ、 [* バックアップ * ] 、 [* リストア * ] 、または [* クローン * ] を選択します。
3. プルダウンメニューを使用して、ジョブ情報を表示する期間（ 24 時間、 7 日間、または 30 日間）を選択します。

   システムには、データをカバーするドーナツグラフが表示されます。

4. レポートを作成するジョブ情報を表すドーナツスライスをクリックします。

   ドーナツグラフをクリックすると、ダッシュボードページからモニタページにリダイレクトされます。[ モニタ ] ページには、ドーナツグラフから選択したステータスのジョブが表示されます。

5. [ モニタ ] ページリストで、特定のジョブをクリックして選択します。
6. [ モニター ] ページの上部で、 [ * レポート * ] をクリックします。

- 結果 *

レポートには、選択したジョブの情報のみが表示されます。レポートは、確認するか、ローカルシステムにダウンロードできます。

## ダッシュボードから保護ステータスのレポートを要求します

ダッシュボードを使用して、特定のプラグインで管理されるリソースの保護の詳細を要求できます。データ保護の概要には、データバックアップのみが表示されます。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * ダッシュボード * をクリックします。
2. Dashboard で最新の Protection Summary タイルを見つけ、プルダウンメニューを使用してプラグインを選択します。

   ダッシュボードには、プライマリストレージにバックアップされているリソースのドーナツグラフと、プラグインに該当する場合はセカンダリストレージにバックアップされているリソースのドーナツグラフが表示されます。

   > ⓘ データ保護レポートは、特定のプラグインタイプにのみ使用できます。すべてのプラグイン * を指定することはできません。

3. レポートを表示するステータスを表すドーナツスライスをクリックします。

   ドーナツグラフをクリックすると、ダッシュボードページからレポート、およびプラグインページに

リダイレクトされます。レポートには、選択したプラグインのステータスのみが表示されます。レポートは、確認するか、ローカルシステムにダウンロードできます。

SnapMirror ドーナツグラフおよびファイルベースの SAP HANA バックアップのレポートページへのリダイレクトはサポートされていません。

# RBAC を管理します

SnapCenter では、ロール、ユーザ、およびグループを変更できます。

## ロールを変更します

SnapCenter ロールを変更して、ユーザまたはグループを削除したり、そのロールに関連付けられている権限を変更したりできます。ロールの変更は、ロール全体で使用される権限を変更または削除する場合に特に便利です。

- 必要なもの *

「 SnapCenterAdmin 」ロールでログインする必要があります。

SnapCenterAdmin ロールの権限は変更または削除できません。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、 * 役割 * をクリックします。
3. [ 役割名 ] フィールドで、変更する役割をクリックします。
4. [ 役割の詳細 ] ページで、権限を変更するか、必要に応じてメンバーの割り当てを解除します。
5. このロールのすべてのメンバーは、他のメンバーのオブジェクトを表示できます * を選択すると、そのロールの他のメンバーは、リソースリストの更新後にボリュームやホストなどのリソースを参照できます。

   他のメンバーが割り当てられているオブジェクトをこのロールのメンバーに表示しない場合は、このオプションを選択解除します。

   このオプションを有効にすると、オブジェクトまたはリソースを作成したユーザと同じロールにユーザが属している場合に、オブジェクトまたはリソースへのアクセスをユーザに割り当てる必要がなくなります。

1. [Submit （送信） ] をクリックします。

## ユーザとグループを変更します

SnapCenter のユーザまたはグループを変更して、ロールとアセットを変更できます。

- 必要なもの *

SnapCenter 管理者としてログインする必要があります。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
  2. [ 設定 ] ページで、 [* ユーザーとアクセス * ] をクリックします。
  3. [ ユーザ名またはグループ名 ] リストで、変更するユーザまたはグループをクリックします。
  4. [ ユーザーまたはグループの詳細 ] ページで、役割とアセットを変更します。
  5. [Submit （送信） ] をクリックします。

# ホストを管理します

ホストを追加して、 SnapCenter プラグインパッケージをインストールしたり、検証サーバを追加したり、ホストを削除したり、バックアップジョブを移行したり、ホストを更新してプラグインパッケージをアップグレードしたりすることができます。使用するプラグインに応じて、ディスクのプロビジョニング、 SMB 共有の管理、イニシエータグループ（ igroup ）の管理、 iSCSI セッションの管理、データの移行も可能です。

| 実行できるタスク | **Microsoft Exchange Server** の場合 | **Microsoft SQL Server** の場合 | （ **Microsoft Windows** の場合） | **for Oracle Database** の略 | **for SAP HANA Database** の略 | **Custom Plug-ins** の場合 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ホストを追加してプラグインパッケージをインストールする | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| ホストの ESXi 情報を更新します | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ |
| スケジュールを一時停止し、ホストをメンテナンスモードにします | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| プラグインを追加、アップグレード、削除して、ホストを変更する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |

| 実行できるタスク | **Microsoft Exchange Server** の場合 | **Microsoft SQL Server** の場合 | （ **Microsoft Windows** の場合） | **for Oracle Database** の略 | **for SAP HANA Database** の略 | **Custom Plug-ins** の場合 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SnapCenter からホストを削除します | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| プラグインサービスを開始する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| ディスクをプロビジョニング | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ | いいえ |
| SMB 共有を管理します | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ | いいえ |
| igroup を管理します | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ | いいえ |
| iSCSI セッションを管理します | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ | |

## 仮想マシン情報を更新します

VMware vCenter のクレデンシャルに変更があった場合、またはデータベースまたはファイルシステムホストが再起動した場合は、仮想マシン情報を更新する必要があります。SnapCenter で仮想マシン情報を更新すると、 VMware vSphere vCenter との通信が開始され、 vCenter クレデンシャルが取得されます。

RDM ベースのディスクは、データベースホストにインストールされた SnapCenter Plug-in for Microsoft Windows で管理されます。RDM を管理するために、 SnapCenter Plug-in for Microsoft Windows は、データベースホストを管理する vCenter Server と通信します。

- 手順 *
  1. SnapCenter の左ナビゲーションペインで、 * Hosts * をクリックします。
  2. [Hosts] ページで、 [*Managed Hosts] をクリックします。
  3. [Managed Hosts] ページで、更新するホストを選択します。
  4. [* VM の更新 * ] をクリックします。

## プラグインホストを変更します

プラグインのインストール後に、必要に応じてプラグインホストの詳細を変更できます。SnapCenter Plug-in for Microsoft SQL Server 、 Group Managed Service Account （ gMSA ；グループ管理サービスアカウント

）、およびプラグインポートのクレデンシャル、インストールパス、プラグイン、ログディレクトリの詳細を変更できます。

プラグインのバージョンが SnapCenter サーバのバージョンと同じであることを確認します。

- このタスクについて *
- プラグインポートを変更できるのは、プラグインのインストール後です。

  アップグレード処理の実行中は、プラグインポートを変更できません。

- プラグインポートを変更する際には、次のポートのロールバックシナリオに注意する必要があります。
  - スタンドアロンセットアップでは、 SnapCenter がいずれかのコンポーネントのポート変更に失敗した場合、処理は失敗し、すべてのコンポーネントで古いポートが保持されます。

    すべてのコンポーネントでポートが変更されたものの、いずれかのコンポーネントが新しいポートでの起動に失敗した場合、すべてのコンポーネントで古いポートが保持されます。たとえば、スタンドアロンホスト上の 2 つのプラグインのポートを変更しようとして、 SnapCenter がどちらかのプラグインに新しいポートを適用できなかった場合、処理は失敗し（該当するエラーメッセージが表示される）、両方のプラグインで古いポートが保持されます。

  - クラスタセットアップでは、 SnapCenter がいずれかのノードにインストールされているプラグインのポート変更に失敗した場合、処理は失敗し、すべてのノードで古いポートが保持されます。

    たとえば、クラスタセットアップの 4 つのノードにプラグインがインストールされていて、いずれか 1 つのノードでポートが変更されなかった場合、すべてのノードで古いポートが保持されます。

GMSA と一緒にプラグインをインストールした場合、 * その他のオプション * ウィンドウで変更できます。GMSA をインストールせずにプラグインをインストールする場合、 GMSA アカウントを指定してプラグインサービスアカウントとして使用できます。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * Hosts * （ホスト）をクリックします。
  2. 上部で [Managed Hosts] が選択されていることを確認します。
  3. 変更するホストを選択し、任意のフィールドを変更します。

     一度に変更できるフィールドは 1 つだけです。

  4. [Submit （送信） ] をクリックします。
- 結果 *

ホストが検証され、 SnapCenter サーバに追加されます。

## プラグインサービスを開始または再起動します

SnapCenter プラグインサービスを開始すると、サービスが実行されていない場合は開始し、サービスが実行されている場合は再起動することができます。サービスの再起動は、メンテナンスの実行後などに必要になることがあります。

サービスの再開時にジョブが実行されていないことを確認してください。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * Hosts * （ホスト）をクリックします。
2. [Hosts] ページで、 [*Managed Hosts] をクリックします。
3. [Managed Hosts] ページで、開始するホストを選択します。
4. をクリックします アイコンをクリックし、 [ サービスの開始 ] または [ サービスの再起動 ] をクリックします。

   複数のホストのサービスを同時に開始または再開できます。

## ホストメンテナンスのスケジュールを一時停止します

ホストで SnapCenter のスケジュールされたジョブの実行を停止するには、ホストをメンテナンスモードにします。この処理は、プラグインをアップグレードする前、またはホストでメンテナンス作業を行う場合に実行してください。

SnapCenter がそのホストと通信できないため、停止しているホストではスケジュールを一時停止できません。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * Hosts * （ホスト）をクリックします。
2. [Hosts] ページで、 [*Managed Hosts] をクリックします。
3. [Managed Hosts] ページで、サスペンドするホストを選択します。
4. をクリックします アイコンをクリックし、 * スケジュールの一時停止 * をクリックして、このプラグインのホストをメンテナンスモードにします。

   複数のホストのスケジュールを同時に一時停止することができます。

   最初にプラグインサービスを停止する必要はありません。プラグインサービスの状態は running または stopped のいずれかになります。

- 結果 *

ホストでスケジュールを一時停止すると、ホストの [ 全般的なステータス ] フィールドに [Managed Hosts] ページに [*suspended] と表示されます。

ホストのメンテナンスが完了したら、 * スケジュールのアクティブ化 * をクリックして、ホストのメンテナンスモードを解除できます。複数のホストのスケジュールを同時にアクティブ化できます。

# Resources ページでサポートされている操作

リソースの検出とデータ保護処理の実行については、のリソースページを参照してください。実行できる処理は、リソースの管理に使用するプラグインによって異なります。

Resources ページでは、次のタスクを実行できます。

| 実行できるタスク | Microsoft Exchange Server の場合 | Microsoft SQL Server の場合 | （Microsoft Windows の場合） | for Oracle Database の略 | for SAP HANA Database の略 | Custom Plug-ins の場合 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| バックアップに使用できるリソースがあるかどうかを確認する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| リソースのオンデマンドバックアップを実行する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| バックアップからリストアします | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| バックアップをクローニングする | いいえ | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| バックアップを管理します | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| クローンを管理します | いいえ | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| ポリシーを管理する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| ストレージ接続を管理する | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |
| バックアップをマウントします | いいえ | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ |
| バックアップをアンマウント | いいえ | いいえ | いいえ | はい。 | いいえ | いいえ |
| 詳細を表示します | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 | はい。 |

# ポリシーを管理する

リソースまたはリソースグループからポリシーの適用を解除したり、ポリシーの変更、削除、表示、コピーを行ったりすることができます。

## ポリシーを変更する

リソースまたはリソースグループにポリシーが適用されている場合は、レプリケーションのオプション、Snapshot コピーの保持の設定、エラーの再試行回数、またはスクリプトの情報を変更できます。スケジュールタイプ（頻度）は、ポリシーを適用解除しないと変更できません。

- このタスクについて *

SnapCenter サーバでは、リソースまたはリソースグループにポリシーが適用されるときにのみスケジュールタイプが登録されるため、ポリシーのスケジュールタイプを変更するには追加の手順が必要です。

| 状況 | 作業 |
| --- | --- |
| 新しいスケジュールタイプを追加します | 新しいポリシーを作成し、必要なリソースまたはリソースグループに適用します。<br><br>たとえば、リソースグループポリシーで毎時バックアップのみが指定されている場合に、日次バックアップの追加が必要となったときは、日次スケジュールタイプを設定したポリシーを作成してリソースグループに追加できます。リソースグループには、「 hourly 」と「 daily 」の 2 つのポリシーが設定されます。 |
| スケジュールタイプを削除または変更 | 次の手順を実行します。<br><br>1. そのポリシーを使用するすべてのリソースとリソースグループからポリシーを適用解除します。<br>2. スケジュールタイプを変更<br>3. すべてのリソースとリソースグループにポリシーを適用し直します。<br><br>たとえば、ポリシーで毎時バックアップが指定されている場合に、これを日次バックアップに変更するには、まずポリシーを適用解除する必要があります。 |

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
2. [ 設定 ] ページで、 [ * ポリシー * ] をクリックします。
3. ポリシーを選択し、 * 変更 * をクリックします。
4. 情報を変更して、 [ 完了 ] をクリックします。

### ポリシーを適用解除

リソースのデータ保護を管理するポリシーが不要となった場合は、リソースまたはリソースグループからいつでもポリシーの適用を解除できます。ポリシーを削除する場合やスケジュールタイプを変更する場合は、事前にポリシーの適用を解除する必要があります。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
  2. [ リソース ] ページで、 [ * 表示 ] リストから [ * リソースグループ * ] を選択します。
  3. リソースグループを選択し、 * リソースグループの変更 * をクリックします。
  4. リソースグループの変更ウィザードのポリシーページで、ドロップダウンリストから、適用解除するポリシーの横にあるチェックマークをオフにします。
  5. ウィザードの残りの部分でリソースグループに追加の変更を加えてから、 [ 完了 ] をクリックします。

### ポリシーを削除する

不要になったポリシーは削除することができます。

- 必要なもの *

ポリシーがいずれかのリソースまたはリソースグループに関連付けられている場合は、リソースまたはリソースグループからポリシーの適用を解除する必要があります。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
  2. [ 設定 ] ページで、 [ * ポリシー * ] をクリックします。
  3. ポリシーを選択し、 * 削除 * をクリックします。
  4. 「 * はい * 」をクリックします。

# リソースグループの管理

## リソースグループに対してさまざまな処理を実行できます。

リソースグループに関連して次のタスクを実行できます。

- リソースグループを変更するには、リソースグループを選択し、 * リソースグループの変更 * をクリックして、リソースグループの作成時に指定した情報を編集します。

  リソースグループを変更する際にスケジュールを変更することができます。ただし、スケジュールタイプを変更するには、ポリシーを変更する必要があります。

  リソースグループからリソースを削除した場合、リソースグループに現在適用されているポリシーに定義されたバックアップ保持の設定は、削除したリソースに引き続き適用されます。

- リソースグループのバックアップを作成する。
- バックアップのクローンを作成します。

  クローニングは、 SQL 、 Oracle 、 Windows の各ファイルシステムのバックアップ、カスタムアプリケーションのバックアップ、および SAP HANA データベースのリソースまたはリソースグループのバックアップから実行できます。

- リソースグループのクローンを作成する。

  この処理は、 SQL リソースグループ（データベースのみを含むグループ）でのみサポートされます。リソースグループのクローニングのスケジュール（クローニングライフサイクル）を設定することができます。

- リソースグループでスケジュールされている処理が開始されないようにする。
- リソースグループを削除する。

## リソースグループに対する処理を停止および再開する

スケジュールされた処理を一時的に無効にして、リソースグループで開始されないように設定できます必要に応じて、あとからこれらの処理を有効にすることができます。

- 手順 *

  1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
  2. [ リソース ] ページで、 [ * 表示 ] リストから [ * リソースグループ * ] を選択します。
  3. リソースグループを選択し、 * Maintenance * （メンテナンス）をクリックします。
  4. [OK] をクリックします。

保守モードにしたリソースグループの操作を再開する場合は ' リソースグループを選択して ' 本番環境をクリックします

## リソースグループを削除する

リソースグループ内のリソースを保護する必要がなくなった場合は、リソースグループを削除することができます。SnapCenter からプラグインを削除する前に、リソースグループを削除する必要があります。

- このタスクについて *

リソースグループ内のリソースに対して作成されたすべてのクローンを手動で削除する必要があります。必要に応じて、リソースグループに関連付けられているすべてのバックアップ、メタデータ、ポリシー、Snapshot コピーを強制的に削除することができます。

- 手順 *

  1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
  2. [ リソース ] ページで、 [ * 表示 ] リストから [ * リソースグループ * ] を選択します。
  3. リソースグループを選択し、 * 削除 * をクリックします。

4. オプション：リソースグループに関連付けられたバックアップ、メタデータ、ポリシー、 Snapshot コピーをすべて削除するには、 * このリソースグループに関連付けられたバックアップとバックアップポリシーの削除 * チェックボックスを選択します。
5. [OK] をクリックします。

# バックアップを管理します

バックアップは、名前変更および削除することができます。複数のバックアップを同時に削除することもできます。

## バックアップの名前を変更する

検索を簡単にするために、バックアップの名前を変更できます。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [ リソース ] ページで、 [* 表示 *] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

   リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。リソースまたはリソースグループがデータ保護用に設定されていない場合は、トポロジページの代わりに Protect （保護）ウィザードが表示されます。

4. [ コピーの管理 ] ビューで、プライマリ・ストレージ・システムから [* バックアップ ] を選択します。

   セカンダリストレージシステムにあるバックアップは名前を変更できません。

Oracle Recovery Manager （ RMAN ）を使用して Oracle データベースのバックアップをカタログ化した場合、そのカタログ化されたバックアップの名前は変更できません。

1. バックアップを選択し、をクリックします 。
2. [ バックアップ名を * に変更 ] フィールドに新しい名前を入力し、 [OK] をクリックします。

## バックアップを削除します

他のデータ保護処理に使用する必要がなくなったバックアップは、削除することができます。

- 必要なもの *

バックアップを削除する前に、関連付けられているクローンを削除しておく必要があります。

クローンリソースに関連付けられたバックアップは削除できません。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [ リソース ] ページで、 [* 表示 *] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

   リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。
4. [ コピーの管理 ] ビューで、プライマリ・ストレージ・システムから [* バックアップ ] を選択します。

   セカンダリストレージシステム上のバックアップは削除できません。
5. バックアップを選択し、をクリックします 。

   SAP HANA データベースのバックアップを削除する場合は、バックアップに関連付けられている SAP HANA カタログも削除されます。

   最後の残りのバックアップを削除すると、関連付けられている HANA カタログのエントリを削除できなくなります。

1. [OK] をクリックします。

   SnapCenter に、対応するバックアップがストレージシステムに存在しない古いデータベースバックアップがある場合は、 remove-smbackup コマンドを使用して、これらの古いバックアップエントリをクリーンアップする必要があります。古いバックアップがカタログ化されている場合は、リカバリカタログデータベースからカタログ化が解除されます。

# クローンを削除します。

## 不要になったクローンは削除できます。

- このタスクについて *

他のクローンのソースと同様に機能するクローンは削除できません。

たとえば、本番環境のデータベースが db1 の場合は、データベース clone1 が db1 のバックアップからクローニングされ、その後 Clone1 が保護されます。データベース clone2 は Clone1 のバックアップからクローニングされます。clone1 を削除するには、先に Clone2 を削除してから Clone1 を削除する必要があります。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [ リソース ] ページで、 [ * 表示 * ] ドロップダウンリストからリソースまたはリソースグループを選択します。
3. リストからリソースまたはリソースグループを選択します。

   リソースまたはリソースグループのトポロジページが表示されます。

4. [ コピーの管理 ] ビューで ' プライマリまたはセカンダリ（ミラーまたはレプリケートされた）ストレージ・システムから [ クローン *] を選択します
5. クローンを選択し、をクリックします 。

   SAP HANA データベースのクローンを削除する場合は、クローンの削除ページで次の操作を実行します。

   a. 「 * Pre-clone delete * 」フィールドに、クローンを削除する前に実行するコマンドを入力します。
   b. Unmount * フィールドで、クローンを削除する前にクローンをアンマウントするコマンドを入力します。
6. [OK] をクリックします。

- 終了後 *

ファイルシステムが削除されない場合があります。次のコマンドを実行して 'clone_delete_delay パラメータの値を大きくする必要があります `./sccli Set-SmConfigSettings`

clone_delete_delay パラメータでは、アプリケーションクローンの削除が完了してからファイルシステムの削除が開始されるまでに待機する秒数を指定します。

パラメータの値を変更したら、 SnapCenter Plug-in Loader （ SPL ）サービスを再起動します。

# ジョブ、スケジュール、イベント、およびログを監視する

ジョブの進捗状況の監視、スケジュールされたジョブに関する情報の取得、およびイベントとログの確認は、 [ 監視 ] ページから実行できます。

## ジョブを監視する

SnapCenter のバックアップ、クローニング、リストア、検証の各ジョブに関する情報を表示できます。開始日と終了日、ジョブのタイプ、リソースグループ、ポリシー、または SnapCenter プラグインに基づいて、表示される情報を絞り込むことができます。指定したジョブの詳細情報やログファイルを確認することもできます。

SnapMirror 処理と SnapVault 処理に関連するジョブも監視できます。

SnapCenter Admin ロールまたはその他のスーパーユーザロールが割り当てられている場合を除き、監視できるのは自分で作成したジョブと自分に関連するジョブだけです。

ジョブの監視に関連して次のタスクを実行できます。

- バックアップ、クローニング、リストア、検証の各処理を監視する。
- ジョブの詳細とレポートを表示します。
- スケジュールされたジョブを停止する。

## スケジュールを監視

現在のスケジュールを表示して、処理の開始日時、前回の実行日時、および次回の実行日時を確認できます。処理が実行されるホストのほか、処理のリソースグループやポリシーに関する情報も確認できます。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [ モニター ] ページで、 [ * スケジュール * ] をクリックします。
3. リソースグループとスケジュールタイプを選択します。
4. スケジュールされた処理のリストを表示します。

## イベントを監視する

ユーザによるリソースグループの作成、システムによるアクティビティの開始、スケジュールされたバックアップの作成など、システム内の SnapCenter イベントのリストを表示できます。イベントを表示して、バックアップやリストアなどの処理が現在実行中であるかどうかを確認できます。

- このタスクについて *

[ イベント ] ページにすべてのジョブ情報が表示されます。たとえば ' バックアップ・ジョブが開始されると 'backup start' イベントが表示されますバックアップが完了すると ' backup complete イベントが表示されます

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [ モニター ] ページで、 [ * イベント * ] をクリックします。
3. （任意） [ フィルタ ] ボックスに、開始日または終了日、イベントのカテゴリ（バックアップ、リソースグループ、ポリシーなど）、および重大度レベルを入力し、 [ 適用 *] をクリックします。または、検索ボックスに文字を入力します。
4. イベントのリストを表示します。

## ログを監視する

SnapCenter サーバログ、 SnapCenter ホストエージェントログ、およびプラグインログを表示およびダウンロードできます。ログを表示してトラブルシューティングに役立てることができます。

- このタスクについて *

フィルタを使用して、特定の重大度レベルのログだけを表示するように絞り込むことができます。

- デバッグ
- 情報
- 警告
- エラー
- 致命的

バックアップジョブが失敗した理由を特定する目的で、ジョブレベルのログを取得することもできます。ジョ

ブ・レベル・ログの場合は、 * Monitor * > * Jobs * オプションを使用します。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
2. [ ジョブ ] ページでジョブを選択し、 [ ログのダウンロード ] をクリックします。

   ダウンロードされた zip 形式のフォルダには、ジョブログと一般的なログが含まれています。zip 形式のフォルダ名には、選択したジョブ ID とジョブタイプが含まれています。

3. [ モニター ] ページで、 [ * ログ * ] をクリックします。
4. ログタイプ、ホスト、およびインスタンスを選択します。

   ログタイプとして * plugin * を選択すると、ホストまたは SnapCenter プラグインを選択できます。ログタイプが * server * の場合、この処理は実行できません。

5. 特定のソース、メッセージ、またはログレベルでログをフィルタリングするには、列見出しにあるフィルタアイコンをクリックします。

   すべてのログを表示するには、「バグ」レベルとして「 * 以上」または「 * 」を選択します。

6. [* 更新 * ] をクリックします。
7. ログの一覧を確認します。
8. ログをダウンロードするには、 * Download * をクリックします。

   ダウンロードされた zip 形式のフォルダには、ジョブログと一般的なログが含まれています。zip 形式のフォルダ名には、選択したジョブ ID とジョブタイプが含まれています。

大規模な構成で最適なパフォーマンスを実現するには、 PowerShell コマンドレットを使用して、 SnapCenter のログ設定を最小レベルに設定する必要があります。

「 Set-SmLogSettings - LogLevel All - MaxFileSize 10MB-MaxSizeRollBackups 10 -JobLogsMaxFileSize 10MB-Server 」を実行します

フェイルオーバー・ジョブの完了後にヘルスまたは構成情報にアクセスするには 'Get-SmRepositoryConfig' コマンドレットを実行します

## SnapCenter からジョブとログを削除します

バックアップ、リストア、クローニング、および検証の各ジョブとそのログを SnapCenter から削除できます。SnapCenter では、ジョブの成否にかかわらず、削除しないかぎりログは永久に保存されます。ジョブのログを削除することで、ストレージの空きを増やすことができます。

- このタスクについて *

実行中のジョブがないことを確認してください。特定のジョブを削除するには、ジョブ ID を指定するか、指定した期間内にジョブを削除します。

ジョブを削除する際、ホストをメンテナンスモードにする必要はありません。

- 手順 *
  1. PowerShell を起動します。
  2. コマンドプロンプトで、「 Open-SMConnection 」と入力します
  3. コマンドプロンプトで「 Remove-SmJobs 」と入力します
  4. 左側のナビゲーションペインで、 **Monitor** をクリックします。
  5. [ モニター ] ページで、 [ * ジョブ * ] をクリックします。
  6. [ ジョブ ] ページで、ジョブのステータスを確認します。
- 詳細はこちら *

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、 RUN_Get-Help コマンド *NAME* を実行して参照できます。または、を参照することもできます "SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド"。

# SnapCenter のレポート機能の概要

SnapCenter には、システムの健常性や処理の状況を監視および管理するためのさまざまなレポートオプションが用意されています。

| レポートタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| バックアップレポート | Backup Report には、 SnapCenter 環境のバックアップ状況に関する全体的なデータ、バックアップの成功率、および指定した期間に実行された各バックアップに関する情報が表示されます。バックアップが削除された場合、そのバックアップのステータス情報はレポートに表示されません。Backup Detail Report には、指定したバックアップジョブに関する詳細情報に加え、バックアップに成功したリソースと失敗したリソースの一覧が表示されます。 |
| クローンレポート | Clone Report には、 SnapCenter 環境のクローニング状況に関する全体的なデータ、クローニングの成功率、および指定した期間に実行された各クローニングジョブに関する情報が表示されます。クローンが削除された場合、そのクローンのステータス情報はレポートに表示されません。Clone Detail Report には、指定したクローン、クローニングホスト、クローニングジョブタスクのステータスに関する詳細情報が表示されます。タスクが失敗した場合は、 Clone Detail Report にその情報が表示されます。 |

| レポートタイプ | 説明 |
| --- | --- |
| リストアレポート | Restore Report には、リストアジョブに関する全体的な情報が表示されます。Restore Detail Report には、指定したリストアジョブについて、ホスト名、バックアップ名、ジョブの開始日時と期間、個々のジョブタスクのステータスなどの詳細情報が表示されます。タスクが失敗した場合は、 Restore Detail Report にその情報が表示されます。 |
| 保護レポート | これらのレポートには、すべての SnapCenter プラグインインスタンスで管理されているリソースの保護の詳細が表示されます。このレポートには、すべてのプラグインインスタンスで管理されているリソースの保護の詳細が表示されます。概要、保護されていないリソースの詳細、レポート生成時にバックアップされなかったリソース、バックアップ処理が失敗したリソースグループのリソース、および SnapVault のステータスを確認できます。 |
| スケジュールされたレポート | これらのレポートは、毎日、毎週、または毎月のように定期的に実行されるようにスケジュールされています。レポートは、指定した日時に自動的に生成され、レポートは電子メールを介して各ユーザーに送信されますスケジュールを有効化、無効化、変更、または削除できます。有効なスケジュールは、 [ 今すぐ実行 ] ボタンをクリックして、オンデマンドで実行できます。管理者は任意のスケジュールを実行できますが、生成されるレポートには、スケジュールを作成したユーザから割り当てられた権限に基づいてデータが含まれます。<br><br>Administrator 以外のユーザは、権限に基づいてスケジュールを表示または変更できます。このロールのすべてのメンバーが [ ロールの追加 ] ページで [ 他のメンバーのオブジェクトを表示できる ] オプションを選択すると、そのロールの他のメンバーは表示および変更できます。 |

## レポートにアクセスする

SnapCenter のダッシュボードを使用すると、システムヘルスの概要を簡単に確認できます。ダッシュボードで詳細にドリルダウンできます。または、詳細レポートに直接アクセスすることもできます。

レポートには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- 左側のナビゲーションペインで、 * ダッシュボード * をクリックし、 * 前回の保護の概要 * 円グラフをクリックして、レポートページに詳細を表示します。
- 左側のナビゲーションペインで、 * Reports * をクリックします。

## レポートをフィルタします

必要な情報や期間に応じて、パラメータの範囲に基づいてレポートデータをフィルタリングできます。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * Reports * をクリックします。
  2. パラメータービューが表示されていない場合は、レポートツールバーの * パラメーター領域の切り替え * アイコンをクリックします。
  3. レポートを実行する時間範囲を指定します。+ 終了日を省略すると、使用可能なすべての情報が取得されます。
  4. 次のいずれかの条件に基づいて、レポート情報をフィルタリングします。
     - リソースグループ
     - ホスト
     - ポリシー
     - リソース
     - ステータス
     - プラグイン名
  5. [ 適用（ Apply ） ] をクリックします。

## レポートをエクスポートまたは印刷します

SnapCenter レポートをエクスポートすると、さまざまな形式でレポートを表示できます。レポートを印刷することもできます。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * Reports * をクリックします。
  2. レポートツールバーで、次のいずれかを実行します。
     - プリント可能なレポートをプレビューするには、 * プリントプレビューの切り替え * アイコンをクリックします。
     - レポートを別の形式にエクスポートするには、 * Export * icon ドロップダウンリストから形式を選択します。
  3. レポートを印刷するには、 * 印刷 * アイコンをクリックします。
  4. 特定のレポートの概要を表示するには、レポートの該当するセクションまでスクロールします。

## E メール通知に使用する SMTP サーバを設定します

データ保護ジョブのレポートを自分または他のユーザに送信するときに使用する SMTP サーバを指定できます。テスト E メールを送信して設定を確認することもできます。この設定は、 E メール通知を設定したすべての SnapCenter ジョブにグローバルに適用されます。

このオプションは、すべてのデータ保護ジョブレポートの送信に使用する SMTP サーバを設定します。ただし、特定のリソースに対する SnapCenter データ保護ジョブの更新情報を定期的に自分または他のユーザに送信し、更新ステータスを監視できるようするには、リソースグループの作成時に SnapCenter レポートを E

メールで送信するオプションを設定できます。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、 * グローバル設定 * をクリックします。
3. SMTP サーバーを入力し、 * 保存 * をクリックします。
4. テスト用 E メールを送信するには、 E メールの送信元と送信先の E メールアドレスを入力し、件名を入力して、「 * 送信 * 」をクリックします。

### レポートを **E** メールで送信するオプションを設定します

SnapCenter データ保護ジョブの更新情報を定期的に自分または他のユーザに送信し、更新ステータスを監視できるようするには、リソースグループの作成時に SnapCenter レポートを E メールで送信するオプションを設定します。

- 必要なもの *

SMTP サーバーは、 [ 設定 ] の [ グローバル設定 ] ページで設定しておく必要があります。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * リソース * をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. 表示するリソースのタイプを選択し、 * 新規リソースグループ * をクリックするか、既存のリソースグループを選択して * 変更 * をクリックし、既存のリソースグループの E メールレポートを設定します。
3. 新しいリソースグループウィザードの通知パネルで、レポートを常に受信するか、エラーが発生したか、またはエラーや警告を受信するかをプルダウンメニューから選択します。
4. E メールの送信元アドレス、 E メールの送信先アドレス、および E メールの件名を入力します。

# SnapCenter サーバリポジトリを管理します

SnapCenter から実行される各種の処理に関する情報は、 SnapCenter サーバのデータベースリポジトリに格納されます。SnapCenter サーバをデータ損失から保護するには、リポジトリのバックアップを作成する必要があります。

SnapCenter サーバリポジトリは、 NSM データベースと呼ばれることもあります。

### SnapCenter リポジトリを保護するための前提条件

SnapCenter リポジトリを保護するには、一定の前提条件を満たしている必要があります。

- Storage Virtual Machine （ SVM ）接続の管理

  ストレージクレデンシャルを設定する必要があります。

- ホストのプロビジョニング

SnapCenter リポジトリのホストに、ネットアップストレージディスクが少なくとも 1 つ必要です。SnapCenter リポジトリのホストにネットアップディスクがない場合は作成する必要があります。

ホストの追加、 SVM 接続のセットアップ、およびホストのプロビジョニングの詳細については、インストール手順を参照してください。

- iSCSI LUN または VMDK のプロビジョニング

ハイアベイラビリティ（ HA ）構成の場合は、いずれかの SnapCenter Server で iSCSI LUN または VMDK のいずれかをプロビジョニングできます。

## SnapCenter リポジトリをバックアップします

SnapCenter サーバリポジトリをバックアップしておくと、データ損失からの保護に役立ちます。リポジトリは、 _Protect -SmRepository_cmdlet を実行してバックアップできます。

- このタスクについて *

_Protect -SmRepository_cmdlet では、次のタスクを実行します。

- リソースグループとポリシーを作成します
- SnapCenter リポジトリのバックアップスケジュールを作成します
- 手順 *
  1. PowerShell を起動します。
  2. SnapCenter サーバホストで、 _Open-SmConnection_cmdlet を使用してセッションを確立し、クレデンシャルを入力します。
  3. _Protect -SmRepository_cmdlet と必要なパラメータを使用して、リポジトリをバックアップします。

## SnapCenter リポジトリのバックアップを表示する

SnapCenter サーバデータベースリポジトリのバックアップのリストを表示するには、 _Get-SmRepositoryBackups_cmdlet を実行します。

リポジトリのバックアップは、 _Protect -SmRepository_cmdlet で指定されたスケジュールに従って作成されます。

- 手順 *
  1. PowerShell を起動します。
  2. コマンドプロンプトで、次のコマンドレットを入力し、 SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*
  3. Get-SmRepositoryBackups_cmdlet を使用して、使用可能な SnapCenter データベースのバックアップの一覧を表示します。

## SnapCenter データベースリポジトリをリストアします

SnapCenter リポジトリをリストアするには、 _Restore-SmRepositoryBackup_cmdlet を実行します。

SnapCenter リポジトリをリストアする場合は、リストア処理中にリポジトリデータベースにアクセスできないため、実行中の他の SnapCenter 処理に影響します。

- 手順 *

1. PowerShell を起動します。
2. コマンドプロンプトで、次のコマンドレットを入力し、 SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*
3. _Restore-SmRepositoryBackup_cmdlet を使用して、リポジトリのバックアップをリストアします。

   次のコマンドレットでは、 iSCSI LUN または VMDK にあるバックアップから SnapCenter MySQL データベースリポジトリをリストアします。

   ```
   C:\PS>Restore-SmRepositoryBackup -BackupName
   MYSQL_DS_SC_Repository_mva-x3550-s09_09-15-2016_10.32.00.4445
   ```

   次のコマンドレットは、バックアップファイルが iSCSI LUN 内で誤って削除された場合に、 SnapCenter MySQL データベースをリストアします。VMDK の場合、 ONTAP Snapshot コピーからバックアップを手動でリストアします。

```
C:\PS>Restore-SmRepositoryBackup -BackupName MYSQL_DS_SC_Repository_mva-
x3550-s09_09-15-2016_10.32.00.4445 -RestoreFileSystem
```

リポジトリのリストア処理の実行に使用されたバックアップは、リストア処理の実行後にリポジトリのバックアップを取得したときに表示されません。

## SnapCenter リポジトリを移行する

SnapCenter サーバのデータベースリポジトリをデフォルトの場所から別のディスクに移行することができます。リポジトリの移行は、より多くのスペースを持つディスクに再配置する場合などに行います。

- 手順 *

1. Windows で MYSQL57 サービスを停止します。
2. MySQL のデータディレクトリを探します。

   通常、このデータディレクトリは C ： \ProgramData\MySQL\MySQL Server 5.7.\Data にあります。

3. MySQL のデータディレクトリを新しい場所（例： E ： \Data\nsm ）にコピーします。
4. 新しいディレクトリを右クリックし、 * プロパティ * > * セキュリティ * を選択して、ネットワークサービスローカルサーバーアカウントを新しいディレクトリに追加し、アカウントにフルコントロールを割り当てます。
5. 元のデータベースディレクトリの名前を変更します（例： NSM_COPY ）。
6. Windows のコマンドプロンプトで、 _mklink_command を使用してディレクトリのシンボリックリンクを作成します。

「 mklink/d 」 C ： \ProgramData\MySQL\MySQL Server 5.7\Data\NSm 」 E ： \Data\NSm

7. Windows で MYSQL57 サービスを開始します。
8. SnapCenter にログインしてリポジトリのエントリを確認するか、 MySQL ユーティリティにログインして新しいリポジトリに接続して、データベースの場所が正しく変更されたことを確認します。
9. 名前を変更した元のデータベースリポジトリディレクトリ（ NSM_COPY ）を削除します。

### SnapCenter リポジトリのパスワードをリセットします

MySQL Server リポジトリデータベースのパスワードは、 SnapCenter 4.2 以降の SnapCenter Server のインストール時に自動的に生成されます。この自動生成されたパスワードは、 SnapCenter ユーザにはいかなる時点でも知られていません。リポジトリデータベースにアクセスする場合は、パスワードをリセットする必要があります。

- 必要なもの *

パスワードをリセットするには、 SnapCenter 管理者の権限が必要です。

- 手順 *

1. PowerShell を起動します。
2. コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力し、 SnapCenter サーバに接続するためのクレデンシャルを指定します。 *Open-SMConnection*
3. リポジトリのパスワードをリセットします。 *Set-SmRepositoryPassword*

   次に、リポジトリのパスワードをリセットするコマンドを示します。

```
Set-SmRepositoryPassword at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
NewPassword: ********
ConfirmPassword: ********
Successfully updated the MySQL server password.
```

- 詳細はこちら *

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、 RUN_Get-Help コマンド *NAME* を実行して参照できます。または、を参照することもできます "SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド"。

# 信頼できないドメインのリソースを管理します

SnapCenter は、 Active Directory （ AD ）の信頼できるドメイン内のホストの管理に加えて、複数の AD の信頼されていないドメイン内のホストも管理します。信頼されていない AD ドメインを SnapCenter サーバに登録する必要があります。SnapCenter では、複数の信頼されていない AD ドメインのユーザとグループがサポートされます

SnapCenter サーバは、ドメインまたはワークグループ内のマシンにインストールできます。SnapCenter サーバをインストールするには、マシンがドメイン内にある場合はドメインのクレデンシャル、ワークグループ内にある場合はローカルの管理者クレデンシャルを指定する必要があります。

SnapCenter サーバに登録されていないドメインに属する Active Directory （ AD ）グループはサポートされていません。これらの AD グループを使用して SnapCenter ロールを作成できますが、 SnapCenter サーバへのログインが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。 The user are trying to login does not belong to any roles管理者に問い合わせてください。

## 信頼できないドメインを変更します

信頼されていないドメインを変更するのは、ドメインコントローラの IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name （ FQDN ；完全修飾ドメイン名）を更新する場合です。

- このタスクについて *

FQDN を変更すると、関連付けられているアセット（ホスト、ユーザ、およびグループ）が想定どおりに機能しなくなる場合があります。

信頼されていないドメインを変更するには、 SnapCenter ユーザインターフェイスまたは PowerShell コマンドレットを使用します。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
2. 設定ページで、 * グローバル設定 * をクリックします。
3. [ グローバル設定 ] ページで、 [* ドメイン設定 * ] をクリックします。
4. をクリックします をクリックし、次の情報を指定します。

| フィールド | 手順 |
| --- | --- |
| ドメイン FQDN | FQDN を指定し、 * resolve * をクリックします。 |
| ドメインコントローラの IP アドレス | ドメイン FQDN を解決できない場合は、ドメインコントローラの IP アドレスを 1 つ以上指定します。 |

5. [OK] をクリックします。

## 信頼されていない **Active Directory** ドメインの登録を解除

ドメインに関連付けられたアセットを使用しないようにするには、信頼されていない Active Directory ドメインの登録を解除します。

- 必要なもの *

信頼されていないドメインに関連付けられているホスト、ユーザ、グループ、およびクレデンシャルを削除しておく必要があります。

- このタスクについて *
- ドメインを SnapCenter サーバから登録解除すると、そのドメインのユーザは SnapCenter サーバにアクセスできなくなります。
- 関連付けられているアセット（ホスト、ユーザ、およびグループ）がある場合、ドメインの登録を解除すると、アセットを操作できなくなります。
- 信頼されていないドメインの登録を解除するには、 SnapCenter ユーザインターフェイスまたは PowerShell コマンドレットを使用します。
- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * 設定 * をクリックします。
  2. 設定ページで、 * グローバル設定 * をクリックします。
  3. [ グローバル設定 ] ページで、 [* ドメイン設定 * ] をクリックします。
  4. ドメインのリストから、登録を解除するドメインを選択します。
  5. をクリックします をクリックし、 * OK * をクリックします。

# ストレージシステムを管理

## ストレージシステムを追加したあとで、ストレージシステムの設定や接続を変更したり、ストレージシステムを削除したりできます。

### ストレージシステム構成を変更する

ユーザ名、パスワード、プラットフォーム、ポート、プロトコルを変更する場合、 SnapCenter を使用してストレージシステムの設定を変更できます。 タイムアウト時間、優先 IP アドレス、またはメッセージングオプション。

- このタスクについて *

個々のユーザまたはグループのストレージ接続を変更できます。同じストレージシステムに対する権限を持つ 1 つ以上のグループに所属している場合は、ストレージ接続リストにストレージ接続名が複数回表示されます。ストレージシステムへの権限を持つ各グループに対して 1 回ずつ表示されます。

- 手順 *
  1. 左側のナビゲーションペインで、 * ストレージシステム * をクリックします。
  2. Storage Systems （ストレージシステム）ページの * Type （タイプ） * ドロップダウンから、次のいずれかの操作を実行します。

| 選択するオプション | 手順 |
| --- | --- |
| ONTAP SVMs | 追加されたすべての Storage Virtual Machine （ SVM ）を表示し、必要な SVM の設定を変更するには、次の手順を実行します。<br><br>a. ストレージ接続ページで、適切な SVM 名をクリックします。<br><br>b. 次のいずれかを実行します。<br><br>◦ SVM がどのクラスタにも含まれていない場合は、ストレージシステムの変更ページで、ユーザ名、パスワード、 EMS および AutoSupport の設定、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、 優先 IP アドレスを指定します。<br><br>◦ SVM がクラスタの一部である場合は、ストレージシステムの変更ページで「 SVM の個別管理」を選択し、ユーザ名、パスワード、 EMS および AutoSupport の設定、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、 優先 IP アドレスを指定します。<br><br>SVM を個別に管理できるように変更した場合は、クラスタから SVM を削除し、 * 再検出 * をクリックしてください。SVM が ONTAP クラスタに追加されます。<br><br>SnapCenter GUI でストレージシステムのパスワードが更新された場合、更新されたパスワードが SMCore に反映されないために、該当するプラグインまたはサーバホストの SMCore サービスを再起動する必要があります。この場合、バックアップジョブが誤ったクレデンシャルエラーで失敗します。 |

| 選択するオプション | 手順 |
| --- | --- |
| ONTAP クラスタ | 追加されたすべてのクラスタを表示し、必要なクラスタ設定を変更するには、次の手順を実行します。<br>a. ストレージ接続ページで、クラスタ名をクリックします。<br>b. Modify Storage System ページで、 Username の横の編集アイコンをクリックして、ユーザ名とパスワードを変更します。<br>c. EMS と AutoSupport の設定を選択またはクリアします。<br>d. [ * その他のオプション * ] をクリックして、プラットフォーム、プロトコル、ポート、タイムアウト、優先 IP などの他の設定を変更します。 |

3. [Submit （送信） ] をクリックします。

## ストレージシステムを削除

SnapCenter を使用して、使用していないストレージシステムを削除できます。

- このタスクについて *

個々のユーザまたはグループのストレージ接続を削除できます。同じストレージシステムに対する権限を持つ 1 つ以上のグループに所属している場合は、ストレージシステム名がストレージ接続リストに複数回表示されます。ストレージシステムへの権限を持つ各グループに 1 回ずつ表示されます。

ストレージシステムを削除すると、そのストレージシステムで実行されているすべての処理が失敗します。

- 手順 *

1. 左側のナビゲーションペインで、 * ストレージシステム * をクリックします。
2. ストレージシステムページの * タイプドロップダウンから、 * ONTAP SVM * または * ONTAP クラスタ * のいずれかを選択します。
3. ストレージ接続ページで、 SVM の横にあるチェックボックスまたは削除するクラスタを選択します。

   クラスタに含まれる SVM は選択できません。

4. [ 削除（ Delete ） ] をクリックします。
5. Delete Storage System Connection Settings （ストレージシステム接続設定の削除）ページで、 * OK * をクリックします。

ONTAP GUI を使用して ONTAP クラスタから SVM を削除した場合は、 SnapCenter GUI で * Rediscover* をクリックして SVM リストを更新します。

# EMS データ収集を管理します

PowerShell コマンドレットを使用すると、 Event Management System （ EMS ；イベント管理システム）でのデータ収集をスケジュール設定および管理できます。EMS データ収集では、 SnapCenter サーバ、インストールされている SnapCenter プラグインパッケージ、ホストに関する情報などが収集され、指定した ONTAP Storage Virtual Machine （ SVM ）に送信されます。

データ収集タスクの実行中、システムの CPU 利用率が高くなります。CPU 利用率は、データサイズに関係なく処理が進行しているかぎり高くなります。

## EMS データ収集を停止します

EMS データ収集は、デフォルトで有効になっており、インストールした日から 7 日ごとに実行されます。データ収集は、 PowerShell コマンドレットの *Disable -SmDataCollectionEMS* を使用していつでも無効にできます。

- 手順 *

1. PowerShell コマンドラインから「 *Open-SmConnection* 」と入力して、 SnapCenter とのセッションを確立します。
2. *Disable-SmDataCollectionEms* と入力して、 EMS データ収集を無効にします。

## EMS データ収集を開始します

EMS データ収集はデフォルトで有効になっており、インストールした日から 7 日ごとに実行するようにスケジュールされています。無効にした場合は、 _Enable-SmDataCollectionEMS_cmdlet を使用して、 EMS データ収集を再開できます。

Data ONTAP event generate-autosupport-log 権限が Storage Virtual Machine （ SVM ）ユーザに付与されている必要があります。

- 手順 *

1. PowerShell コマンドラインから「 *Open-SmConnection* 」と入力して、 SnapCenter とのセッションを確立します。
2. EMS データ収集を有効にするには、「 *Enable -SmDataCollectionEMS* 」と入力します。

## EMS データ収集のスケジュールとターゲット SVM を変更します

PowerShell コマンドレットを使用して、 EMS データ収集のスケジュールやターゲット Storage Virtual Machine （ SVM ）を変更することができます。

- 手順 *

1. PowerShell コマンドラインを使用して SnapCenter とのセッションを確立するには、 _Open-SmConnection_cmdlet を入力します。
2. EMS データ収集のターゲットを変更するには、 _Set-SmDataCollectionEmsTarget_cmdlet を入力します。
3. EMS データ収集のスケジュールを変更するには、 _Set-SmDataCollectionEmsSchedule_cmdlet を入力します。

## EMS データ収集のステータスを監視します

いくつかの PowerShell コマンドレットを使用して、 EMS データ収集のステータスを監視できます。スケジュール、 Storage Virtual Machine （ SVM ）ターゲット、およびステータスに関する情報を取得できます。

- 手順 *
  1. PowerShell コマンドラインから「 *Open-SmConnection* 」と入力して、 SnapCenter とのセッションを確立します。
  2. *Get-SmDataCollectionEmsSchedule* と入力して、 EMS データ収集スケジュールに関する情報を取得します。
  3. *Get-SmDataCollectionEmsStatus* と入力して、 EMS データ収集のステータスに関する情報を取得します。
  4. *Get-SmDataCollectionEmsTarget* と入力して、 EMS データ収集ターゲットに関する情報を取得します。
- 詳細はこちら *

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明については、 RUN_Get-Help コマンド *NAME* を実行して参照できます。または、を参照することもできます "SnapCenter ソフトウェアコマンドレットリファレンスガイド"。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。